

総合的病害虫管理（IPM）検討会 第1回野菜専門部会・果樹専門部会合同会合の議事概要

1. 日時 平成17年11月10日（木） 14:00～16:00

2. 場所 経済産業省別館825号会議室

3. 出席者

○野菜専門委員

大西 忠男（兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター 園芸部長）

河合 章（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 東北農業研究センター 野菜花き部長）

酒井 宏（群馬県農業局農政課 普及指導室 園芸技術グループ 副主幹）

白川 隆（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所 葉根菜研究部 病害研究室長）

豊嶋 悟郎（長野県野菜花き試験場 病害虫土壌肥料部 研究員）

○果樹専門委員

芦原 亘（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 上席研究官）

伊藤 伝（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所 リンゴ研究部 病害研究室長）

加藤 彰宏（大阪府立食とみどりの総合技術センター 都市農業部 主任研究員）

田代 暢哉（佐賀県果樹試験場 専門研究員）

多々良明夫（静岡県農業試験場 土着天敵プロジェクト 研究主幹）

○農林水産省

伊地知 俊一 大臣官房参事官（兼消費・安全局）

早川 泰弘 消費・安全局植物防疫課長

松岡 謙二 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（総括・企画班担当）

安藤 由紀子 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（防除班担当）

4. 配付資料

- 資料 1 総合的病害虫管理（I P M）検討会野菜、果樹専門委員名簿
- 資料 2 総合的病害虫管理（I P M）検討会・専門部会開催要領（案）
- 資料 3 野菜及び果樹を対象とした I P M実践指標モデルの策定について
- 資料 4 総合的病害虫管理（I P M）検討会野菜専門部会・果樹専門部会の検討スケジュール（案）について
- 参考資料 1 総合的病害虫管理（I P M）検討会開催要領
- 参考資料 2 今後の I P M実践指標モデルの策定方針について
（第 4 回 総合的病害虫管理（I P M）検討会の資料）
- 参考資料 3 総合的病害虫・雑草管理（I P M）実践指針
- 参考資料 4 I P M実践指標モデル（水稻）

5. 議事概要

（1）開催要領（案）が承認された後、野菜専門部会の座長として河合委員が、果樹専門部会の座長として芦原委員が選出された。

（2）野菜及び果樹を対象とした I P M実践指標モデルの策定

議事の概要等は以下のとおり。

- I P M実践指標モデルは都道府県がそれぞれ各地域の I P M実践指標を策定する際の参考とされるものであり、I P Mを生産現場に普及していくことを前提とし、I P M実践指針 II の 3 の（3）I P M実践指標策定上の留意点に基づき策定することが確認された。
- I P M実践指標モデルを「野菜類」や「果樹類」のグループで策定するか、個別作物で策定するかについて検討した結果、以下の理由から個別作物について策定することとなった。
 - ・ 生産現場での取組は多様であり、基本的な技術から高度な技術まで盛り込むには個別作物を対象とした方が現実的である。
 - ・ 指標は各地域の生産現場で播種から収穫まで一貫した作業の中で用いられるものなので、個別作物について作成した方が生産者にとって活用しやすい。
 - ・ 果樹の場合、常緑樹と落葉樹では生育状況や発生する病害虫が大きく異なることから、グループとしてモデルを作成すると管理項目や管理ポイントが多くなり、現場で使い難いものとなる。

- 指標モデルの対象作物の選定について、栽培面積、栽培地域の広がり等を考慮して検討した。

野菜専門部会ではIPMの技術が多いこと、他のアブラナ科のハクサイやダイコン等の指標作成にも応用が期待できること等から判断して「キャベツ」を対象とすることとなった。

果樹専門部会では天敵利用などIPMの技術が蓄積されていること、栽培面積が果樹の中で最も多いこと等から判断して「カンキツ」を対象とすることとなった。

- キャベツ及びカンキツのIPM実践指標モデルの管理項目及び管理ポイントの設定について検討した。

IPMは農家が主体となっていくことが重要であり、個々の農家が病害虫の発生時期を予察するためのマニュアルが必要、果樹では効果のある農薬の適正な時期の散布やその残効を伸ばすなどの農薬の使い方が重要、キャベツは水田圃場での栽培と畑地圃場での栽培の違いを考慮に入れることが必要等の意見が出された。

- 各委員からIPMの管理項目及び管理ポイント案を予防的措置、判断、防除、その他に分けて提案し、事務局で整理した上で検討することとなった。

(3) 今後のスケジュール

2月中にIPM実践指標モデル(案)を策定することとし、次回の会合の開催時期については各専門部会で決定することとなった。